

団体名		公益財団法人武蔵野市国際交流協会							
① 事業	指標名	外国籍市民支援事業への外国人参加促進			目標値	対前年度増	実績値	1,559人	
	過去の実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率	119.2%	達成状況	達成	
	(単位: 人)	—	941	1,308					
	取組内容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 留学生ファミリープログラムでは、亜細亜大学、成蹊大学、農工大学、東京外国語大学に職員が出向き、MIA及び留学生ファミリープログラムなどについてオリエンテーションを行い、参加を呼び掛けた。							
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 主に外国人相談とむさしのファミリープログラムへの説明会への参加者の増加が目標を達成する要素となった。一方、日本語交流教室などは三密を避けるため休止しており、また、留学生ファミリープログラムは留学生の来日も大きく減少している。そのため、参加人数の大幅な減少なども危惧されるため、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、SNSや電話等を活用した相談方法や留学生との交流の方法について検討する必要がある。							
	二次評価	各大学へ職員が出向き、MIA及び留学生ファミリープログラムなどについてPRした結果、目標を大きく上回ったことを評価する。外国籍市民支援事業の利用者は年々増加しており、ニーズは高まっていると考えられるため、引き続きコロナ禍における効果的な相談支援の方法について検討していただきたい。また、日本語交流教室などのイベントについても、コロナ禍での取組方法について、検討していただきたい。							
	② 財務	指標名	流動比率の適正化			目標値	流動比率の前年度比減 (基準値300%)	実績値	391.2
		過去の実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率	76.7%	達成状況	未達成
		(単位: %)	466.4	372.5	321.7				
		取組内容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 流動比率の適正化に向けて、公益目的事業の単年度一般正味財産が減少するよう一般正味財産期末残高(内部留保資金)からの支出を行った。						
一次評価		※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 公益目的事業について、経常収益(主に補助金)を内部留保資金が減少するよう一定以下に抑えたことにより、単年度の経常収支が赤字となったため、平成28年度の東京都立ち入り検査で指摘されていた「収支相償」については、条件を満たすことができ、内部留保資金の適正化を図ることができた。引き続き、予算時に適正な収支バランスをとり、流動比率の適正化に取り組む。							
二次評価		内部留保資金の適正化を図ったことは評価できるが、流動比率は前年度より増加しているため、引き続き収支のバランスの適正化に努めていただきたい。							
③ 内部		指標名	MIA事業へのボランティアの参加促進			目標値	対前年度増	実績値	370人
		過去の実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率	101.6%	達成状況	達成
		(単位: 人)	—	353	364				
		取組内容	※R元年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 MIA事業の実施はそのほとんどが会員ボランティアに支えられており、職員はボランティアのコーディネートを行っている。そのため、ボランティアの登録者及び事業への協力者を増やすよう、今年度は東京フォーラムで開催された「おもてなしボランティアイベント」にMIAブースを出展するなどPRIに努めた。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 東京フォーラムでのPRを通じたボランティアや協力者の要請を行ったことにより、ボランティアの参加人数の増加につながり、目標人数を達成することができた。今後は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で協力を控える方や、事業自体の中止・延期もあるため、ボランティアのモチベーションを維持する方法について検討する必要がある。							
	二次評価	イベントブースを出展するなど、ボランティアの拡充に向けて取り組んだことを評価する。引き続きボランティアの拡充に向けた取組を実施するとともに、コロナ禍での事業の実施方法や、ボランティアのモチベーションの維持・向上に向けた取組について、検討していただきたい。							